

テーマ展「井伊の赤備えー勇猛なる軍団ー」展示作品リスト

番号	指定	作品名称	数量	時代	所蔵
赤備えと合戦の時代					
1		正諫記	1冊	江戸時代 承応2年(1653)	当館(井伊家伝来典籍)
2		関ヶ原合戦図	1隻	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)
3	県指定	朱漆塗仏二枚胴具足 【伝初代井伊直政所用】	1領	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
4		朱地井桁紋旗印	1流	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
5		金箔押蠅取形馬印	1基	江戸時代中期～後期	当館(井伊家伝来資料)
6		合弓	1張	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
7		征矢	5本	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
8		鎌	6本	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
9		大坂夏の陣図	6曲1双のうち1隻	江戸時代	個人
10		紙采配	1握	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
11	県指定	朱漆塗燻韋威縫延腰取二枚胴具足 【伝2代直孝所用】	1領	桃山～江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
12		朱漆塗蛭巻鞘大小拵	1対	桃山～江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
13		脇指 無銘 伝備前則光	1口	室町時代	当館(井伊家伝来資料)
14		井伊年譜 卷三	1冊	江戸時代後期	当館(井伊家伝来典籍)
15		大坂夏御陣之事・関ヶ原御陣之事	1冊	江戸時代	当館(井伊家伝来典籍)
16		宮王肩衝茶入	1口	中国・宋時代	当館(井伊家伝来資料)
17	重文	本多忠勝書状写	1状	江戸時代	当館(彦根藩井伊家文書)
18		関ヶ原・大坂陣戦功覚書	1状	江戸時代 宝暦8年(1758)	当館(個人寄贈・三浦十左衛門家文書)
19		井伊家軍法定書	1面	江戸時代 宝暦6年(1756)	当館(井伊家伝来資料)
赤備えの軍団					
20	県指定	朱漆塗紺糸威縫延腰取二枚胴具足 【伝3代直澄所用】	1領	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
21		朱漆塗紺糸威縫延胸取二枚胴具足	1領	江戸時代	当館(伊藤勝一氏寄贈・伝横田家伝来資料)
22		朱漆塗萌葱糸威二枚胴具足	1領	江戸時代	当館(個人寄贈・三居孫太夫家伝来資料)
23		朱漆塗紺糸威縫延二枚胴具足	1領	江戸時代	当館(孕石真一氏寄贈・孕石備前家伝来資料)
24		八幡大菩薩流旗	2流	江戸時代	当館(孕石真一氏寄贈・孕石備前家伝来資料、個人寄贈資料)
25		朱漆塗紺糸威切付小札二枚胴具足	1領	江戸時代	個人
26		朱漆塗桶側五枚胴具足	1領	江戸時代	当館(孕石泰和氏寄贈・孕石備前家伝来資料)
27		朱漆塗木瓜紋蒔絵鞍・鍔	1組	江戸時代 宝永2年(1705)銘	当館(孕石真一氏寄贈・孕石備前家伝来資料)
28		朱漆塗木瓜紋鞍覆	1背	江戸時代	当館(孕石真一氏寄贈・孕石備前家伝来資料)
29		朱漆塗紺糸威暈兜	1頭	江戸時代	当館(孕石真一氏寄贈・孕石備前家伝来資料)
30		朱漆塗提灯兜	1頭	江戸時代	個人
31		朱漆塗蛭巻鞘大小拵	1対	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
32		刀 無銘(伝備前長船倫光) 【伝直政、直澄所用】	1口	南北朝時代	当館(井伊家伝来資料)
33		朱青蛭巻虫喰塗鞘大小拵	1対	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
34	県指定	朱漆塗仏腰取三枚胴具足 【伝井伊直滋所用】	1領	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
35		御武器并御道具類絵図・御家中指物武器類絵図	428枚のうち6枚	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

2 関ヶ原合戦図 1隻

縦：156.7 cm 横：361.2 cm

江戸時代後期

当館蔵(井伊家伝来資料)



「天下分け目の戦い」といわれる慶長5年(1600)の関ヶ原合戦。本図は、徳川家康が率いる東軍の形勢が有利に転じた、9月15日午後からの合戦の様を描いています。第2扇に井伊直政率いる「井伊の赤備え」の一軍が大きく取りあげられていることから、井伊家あるいはその家臣の依頼により制作されたものと考えられます。



(第2扇拡大)

3 朱漆塗 二枚胴具足 1領

滋賀県指定有形文化財

胴高：37.0cm 胴廻：104.7cm 鉢高：17.1cm

桃山時代

当館蔵(井伊家伝来資料)

井伊家初代直政(1561～1602)が関ヶ原合戦で着用したと伝える具足。彦根藩では、藩主の兜は金箔押しきんぱくの天衝てんつきをつける決まりがありましたが、この兜にはそれを装着するための金具がなく、「井伊の赤備え」の形式が定まる前に制作された可能性が考えられます。全身を鉄板で隙間なく覆う実戦用の甲冑です。元来は黒糸おどで威おどされていましたが、後世の修理によって現在の状態となりました。



4 朱地井桁紋旗印 1流

天地：331.0 cm 幅：204.0 cm

桃山時代

当館蔵(井伊家伝来資料)

朱の練絹に井伊家の家紋である井桁が金箔で大きくあらわされた旗印です。旗印は、戦場において大将の居場所を知らせるもので、井伊家では纏、粧軍と呼びました。関ヶ原合戦や大坂の陣で用いられたという伝承をもつ同じ形式の旗印が数流現存しており、これは関ヶ原合戦時使用と伝えられます。



11 朱漆塗燻韋威縫延腰取二枚胴具足 1領

滋賀県指定有形文化財

胴高：40.9cm 胴廻：114.7cm 鉢高：14.5 cm

桃山～江戸時代

当館蔵(井伊家伝来資料)

井伊家2代直孝(1590～1659)の所用と伝える具足。朱漆で統一し、兜に金箔押し为天衝脇立をつけた、典型的な「井伊の赤備え」の形式です。無用な装飾のない実戦向きの重厚なつくりで、井伊家歴代藩主の具足の中でも、最も整ったものです。この朱塗で兜到天衝脇立をつける当世具足の形式は、歴代当主により踏襲されていきました。



19 井伊家軍法定書 1面

縦：36.2 cm 横：174.0cm
江戸時代 宝暦6年(1756)
当館蔵(井伊家伝来資料)



井伊家家臣の武具の規定や軍役についての定書。武具については、兜につける立物は金の半月で長さ2尺(約60cm)とし、脇につけることは禁止、旗指物は朱地に名を金であらわすことなどが規定されています。藩主の代替わりごとに、城中の広間に掲げられたと伝わります。

22 朱漆塗萌葱糸威二枚胴具足 1領

胴高：38.4 cm 鉢高：15.0cm
江戸時代
当館蔵(個人寄贈・三居孫太夫家伝来資料)

彦根藩士・三居孫太夫家に伝来した1領。兜は、金色の吹返を付けた鑄地仕上げの星兜で、胴は、萌葱糸で毛引に威した切付小札胴です。

赤色を基調とし、兜の飾り(立物)を正面に立て、朱地に金で自身の名を記した旗指物を備えるという特徴は、井伊家軍法に則ったものです。



27 朱漆塗木瓜紋蒔絵鞍・鐙 1組

鞍 前輪：27.1cm 後輪：25.6cm 鐙全長：28.5cm

江戸時代 宝永2年(1705)

当館蔵(孕石真一氏寄贈・孕石備前家伝来資料)

孕石備前家伝来の鞍と鐙です。全面を朱漆塗で仕上げ、鞍の前輪と後輪、鐙の正面には金蒔絵で同家の家紋を表しています。居木の裏に刻まれる制作年と花



押から、宝永2年(1705)に將軍家御用鞍師である伊勢貞房が制作したものであることがわかります。

藩士家の道具帳の中には、朱塗の具足とともに、「朱塗前後金定紋」の鞍が挙げられており、本作のような形式の鞍が、赤備えの装備の一つとして認められていたことがうかがえます。

34 朱漆塗仏腰取三枚胴具足 1領

滋賀県指定有形文化財

胴高：29.2cm 胴廻：83.2cm 鉢高：18.5cm

江戸時代

当館蔵(井伊家伝来資料)

2代直孝の世子(世継ぎ)であった直滋(1612～1661)が、武士の成長儀礼の一つである初召しの際に着用したと伝える子ども用の具足。本作品は、直政の甲冑(作品3)と同様の仏胴という形式です。その名は、胴の表面に継ぎ目がみられない様を仏像の滑らかな胸に喩えたことに由来します。小さいながらも赤備えの具足で、兜は椎形で銀地の鉢の縁に白毛がつけます。現在は茶色の糸で威されていますが、当初は紫の糸で威されていたようです。

